

| | |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【教材名】 | オブジェクトキュー（活用例2）～活動内容のオブジェクトキュー～ |
| 【画像】 | <p>【例1】「自転車に乗ろう」 【例2】「空き缶作業」</p>  <p>「自転車」 「あきかん」</p> |
| 【動画記録】 | 有・ 無 |
| 【対象】（障害の程度・特性） | <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部～高等部(全学年) ・盲ろう児(視覚聴覚二重障害)、視覚障害を併せ有する重複障害児 ・視覚や言葉による情報の受信・発信に困難があり、コミュニケーションに触覚の活用が有効な幼児児童生徒 |
| 【単元・活用場面】 | ・学校生活全般（時間割の確認時や活動場所への移動時 等） |
| 【ねらい】 | <ul style="list-style-type: none"> ・「物」を通して次の活動内容を知ることができる。 ・提示されたオブジェクトキューを触り、教師が発信するキューの意図を理解し、自分で判断し、自分の意思を表現することができる。 YES → 応じて移動し、活動する。 NO → 応じない。移動しない。 ・NO の場合、繰り返し教師と交渉を重ねたり、別のオブジェクトキューの提示を受けて活動を選択したりすることができる。 |
| 【導入時の配慮点】 | <ul style="list-style-type: none"> ・触って活動内容をイメージしやすい「物」を選定すること。 特に初期段階では、形や手触りから活動に結び付きやすい具体物、あるいはその断片を選定すると有効である。 ・選定したオブジェクトキューが本当に子どもにとって分かりやすいものであるか、アイマスクをして実際に視覚情報なしで確認してみる。 ・オブジェクトキューで活動に誘った際、活動を始める時にオブジェクトキューが示す意味を確認すること。 |
| 【使い方】 | <ul style="list-style-type: none"> ・その日の活動の流れに沿ってスケジュールボックスに時系列にオブジェクトキューを配列し、順番に触って予定を確認する。 ・活動に誘うときにそのキューで次の活動(内容)を予告して活動に誘う。 ・活動後にキューを「おしまい」ボックスに入れ、活動の終わりを確認する。 ・活動へ誘う際、そのオブジェクトキューで交渉したり、応じない時は違うオブジェクトキューも選択肢に加えて交渉したりするツールとして活用する。 |
| 【効果・成果・課題】 | <ul style="list-style-type: none"> ・好きな活動では、オブジェクトキューの理解も早く、提示を受けて次の楽しい活動に見通しを持って主体的に行動する姿を引き出すことができた。 ・オブジェクトキューの活用が定着してくると、キューを通したやりとり(交渉、選択、意思表示、折り合いなど)の過程を丁寧にしやすくなり、子どもの意思を確認するコミュニケーションツールとして活用できるようになった。 |
| 情報提供者問い合わせ先 氏名（学校名） | <p>新潟県立新潟盲学校 教諭 上田 淳一</p> <p>* 連絡先は研究会事務局までお問い合わせください。</p> |